

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		児童発達支援センター この街きっず学園 通園事業				公表日	2026 年 3 月 27 日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	37			・1クラス8名程がちょうどよい。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	37		・子どもの状況や出席人数により、クラスの枠を超えて体制を整えている。 ・年度途中で職員配置が変わったが、サポート職員等を配置して体制を整えた。	・最低基準が4:1だが、それではとても難しい。実際は2:1くらい。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	37		・児童の出席状況により、体制を整えている。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	37		・使用後は掃除を行い、清潔にできている。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	37		・部屋が足りないときは、空部屋があれば使用している。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	34	1	・各クラスでの振り返りを行い、共有している。	短時間勤務等時間的な制約もある。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	36	1	・共有している。	・なかなか周知できないところがある。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	33		・定期的な面談やクラスリーダー会等で、職員の意見を把握している。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	26	5		・第三者の評価はなかなか得られない。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	35	1	県内の研修等、身近な研修は受けられるよう工夫し、フィードバックしている。	・以前のように東京など、先進的な研修を受けられるよう検討していきたい。	
適切な	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	37		・公表しています。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	37		・モニタリングや保護者の願い・悩みも聞きながら、話し合って作成している。年に2回作成している。		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	36		・支援計画の作成は、児発・クラス担任・看護師・主任・訓練士・園長と話し合い、保護者の願いも確認し、検討・作成している。		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	37		・支援計画に基づいた日々記録用紙に記載し、振り返りを行っている。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	36		・子どもの姿を支援計画に沿って記録し確認している。		
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	37		・支援内容は子どもの姿から具体的に段階を追って立てている。		

支援の提供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	36		・クラス会で1週間の活動について担任で話し合う時間をつくっている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	36		・プログラムが偏らないよう工夫している。	・引き続き、他クラスに支援に入る機会や、情報共有の機会を設けていきたい。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	36		・個々に合わせて、集団活動や机上の制作等の参加の目的や仕方を支援計画に記しそれぞれが楽しめるよう工夫している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	36	1		・サポート職員との情報共有が主になりやすい時期があったので、担任間でも日常的に情報共有や確認を心がけている。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	35		・勤務時間、勤務形態の違いから、全員揃った打ち合わせや振り返りができない日もありますが、翌朝等に共有できるように心がけている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	37		・その日のうちに記録を済ませるように心がけている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	36		・相談支援専門員とのモニタリングには、なるべく担当職員や児発管が出席し、保護者と共に情報共有し方向性を確認している。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	36		・できる限り参画している。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	36		・必要に応じ子どもの主治医等を混ぜたカンファレンスを行い支援体制を作っている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	36		・移行支援は丁寧に引き継いでいる。 ・見学・体験は職員も同行し、現場での生活の中での引継ぎを行っている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	36		・就学先が決まれば移行先の教員も当園へ見学に来て、細かい情報共有を行っている。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	21	2	・県内の児童発達支援センターとの情報交換会や研修会に参加して、支援の向上に生かしている。 ・地域の児童発達と併行利用している児童のケースを共有している。	
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	22		・各クラスに訓練士が入り、日常の中で児童の発達支援に生かしている。 ・療育等支援事業(信濃医療福祉センター心理師)の職員を派遣していただき保護者と職員の共通認識を図っている。	・外部研修の情報収集や体制を整えていきたい。 ・感染症が収束してきたので行ってきたい。
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	23		・自立支援協議会の療育支援部会・医療的ケア部会・強度行動障害WGに参加している。	
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	37		・当園の地域の保育園や、希望がある年長児の地域園との交流を行っている。	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	36		・送迎時に直接又は連絡帳を通して伝え合っている。 ・訓練や保護者通園の時に課題について共有し、関わり方等共通理解している。	

	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	31	3	・学年ごとの勉強会を開催し、ご家庭での悩みに丁寧に答えている。	・企画を検討していきたい。 ・なかなか講師がいない状況でペアトレはできていないが、保護者同士や年齢別に学びあっている。また、メールで講演会の案内をしている。
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	34		・入園説明会で個別、または少人数でのグループ毎に説明している。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	36		・親のねがいを聞きし共有し支援に取り込んでいる。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	36		・定期的に個別懇談会を行い、説明している。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	36		・普段から保護者とのコミュニケーションを大切にし、悩み等の相談を聞いて一緒に支援を考えている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	36		保護者会をサポートさせていただいている。	・『お話ししよう』の機会や親子行事での活動内容を工夫したり、保護者会にも協力していただきながら機会を設けていきたい。
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	36		なるべくその日のうちに相談し、迅速に対応している。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	37			・できるだけ細やかに、いろいろな情報を発信していきたいと思います。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	33		・個人情報の取り扱いに注意しています。	・今後も情報管理に努めます。
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	36		・視覚支援や、翻訳機能アプリ等を利用している。	今後も分かりやすい支援を徹底します。
非常時等の対応	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	29	4		・感染対策をしながら、いろいろな行事を計画していきたい。
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	36	1	・マニュアル等を策定している。	工夫して周知していきたい。
	46	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	37		・いろいろな状況を考慮し、毎月避難訓練を実施している。 ・法人全体や親子合同避難訓練があり、引き渡し訓練も行っている。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	37		・入園の際や処方された際に確認している。 ・医師の指示書に基づき看護師が服薬等医療行為を行っている。	・引き続き、医療の聞き取りをしっかりと行っていきます。
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	37		・医師の指示書に基づき、懇談している。 ・朝会や配膳時にも確認している。 ・食後の掃除の徹底をしている。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	35		安全計画を作成している。	・定期的に遊具の見直しや点検の機会を設けている。 ・安全計画の必要な研修や訓練を行ってきたい。
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	33		・安全計画に基づき法人で研修を行っている。	・周知に力を注ぎたい。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	37		・ヒヤリハットは職員会や朝会で周知し、再発防止策を検討している。	
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	37		・法人全体で全員参加の研修を受けている。		
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	35	1	・法人内研修を行っている。 ・保護者と相談し支援計画に記載している。	・今後も保護者との相談・合意を丁寧にし、支援計画に掲載していきます。	